



木もれびの森の草花

これからの季節・「木もれびの森」ではいろんな植物の花が咲き。新緑も美しく森の散策に良い季節になりました。植生地は昨年下草刈をし、今年は落ち葉かきをしたせいでしょうか4月には**フデリンドウ**が群落をなして咲き誇り見事でした。また**ヒトリシズカ**も咲き花を楽しむことが出来ました。

フデリンドウ(筆竜胆)：リンドウ科・2年草、草丈：5～10cm

葉：厚みのある小さな葉は対生、花期：4～5月、分布：日本全土
木漏れ日のさす雑木林のなかなどに生える。

日が照らないと花が咲かないので、雨や曇りの日には見つけにくい。

名の由来—とじた花の形が筆先に似ている。

ヒトリシズカ(1人静)：センリョウ科・多年草、草丈：20cm位

花期：4～5月、分布：日本全土

山の林の中に生える。葉は十字形に対生するので輪生のように見える。

名前の由来は義経の愛妾の静御前に匹敵するくらい美しい花で穂が1本という意味だそうです。

写真はどちらも4月13日に木もれびの森で撮影したものです。【田崎】



フデリンドウ



ヒトリシズカ

木もれびの森の野鳥たち……5月

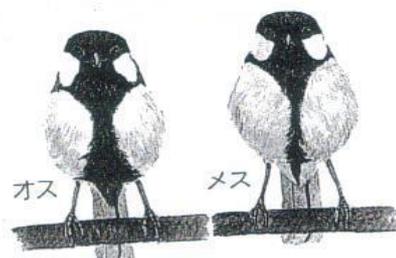
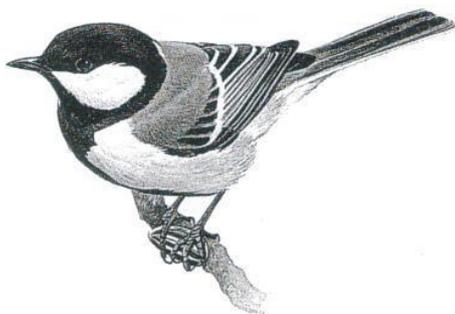
“繁殖の季節 身近な鳥シジュウカラは……”

木々の葉の展開とともに虫たちの活動も始まり、野鳥たちは繁殖の忙しい季節となりました。木もれびの森で越冬していた冬鳥の**ツグミ**たちも、北の繁殖地へ旅立ち、入れ替わりに南から**ツバメ**などの夏鳥がやってきました。そろそろ**キビタキ**のさえずりも楽しめる頃です。

今回は、木もれびの森で一年中見られる**シジュウカラ**について紹介します。冬の間、**メジロ**や**コゲラ**とともに大きな群れで過ごしていた**シジュウカラ**。3月ごろから2羽で行動している姿が目につき、森を歩くとあちこちでカップルに出会います。

雄は雌に芋虫をプレゼント。雌は巣立ちビナのように翼を小刻みに震わせ受け取ります(求愛給餌行動)。カップルが誕生すると次は巣作りです。**シジュウカラ**は自分で巣を作らず、木のうろや朽ちてできた木の隙間を利用します。また身近なところではブロック塀の穴や植木鉢などにも。お気に入りの巣が決まると巣材運び。産卵のためのベッドは、主にコケや獣などの柔らかい毛を運びますが、雄は付き添い見張り役。雌だけがくちばし一杯に巣材をくわえて巣へと運びます。何日もかけてふかふかベッドが出来上がると、産卵・抱卵に入ります。

いま、森や庭先のどこかで**シジュウカラ**のこんな繁殖行動が進行中です。もし垣間見られたら遠くからそっと見守ってください。ヒナの誕生も間近か。しばらくは親たちの大奮闘子育てが続きます。【瀬尾】



オス

メス

太いネクタイ

細いネクタイ

シジュウカラ

木もれびの森の樹

本誌が出る頃はほとんどのサクラの花が散り若葉の時期となっている頃ですが、まだ開花しているサクラがあります。活動地の散策路沿いに取付けた樹名板のサクラはヤマザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラの三種類ですが、ヤマザクラの花は葉の展開と同時に咲きます。花はすでに散り若葉の緑が日々濃くしています。



ヤマザクラ

ヤマザクラ(山桜)は他のサクラとともにバラ科のサクラ亜科、サクラ属ですが、ウワミズザクラ、イヌザクラはウワミズザクラ属で4月下旬から5月ごろに開花しますから、現在見られるかも知れません。

ウワミズザクラ(上溝桜)は北海道から九州に分布し、葉の展開後4月下旬から5月に、本年枝の先に長さ10~20cmの総状花序を出し、多数の白い花をつけます、また花序のもとに3~5個の葉がつきます。樹皮は暗紫褐色、平滑で光沢があるのが特徴です。果実は熟す前に採ったものを塩漬けにして食用に、果実酒にもします。材は版木に、樹皮は桜皮細工に用いられます。



ウワミズザクラ

イヌザクラ(犬桜)は本州、四国、九州に分布し、こもれびの森でもよく見られるように高木になります。花は葉の展開後に前年枝から総状花序に多数の白い花をつけます。花序の長さは6~10cmで花序のもとに葉はないのがウワミズザクラとの違いです。樹皮は灰白色で光沢があり、淡褐色の横目の皮目があり、老木では小さな薄片になってはがれます。果実は苦味が強いが、塩漬けにして利用されます。また、葉や枝をもむと青くさい匂いがします。

こもれびの森ではウワミズザクラの可憐な花が咲いているところがあちこちにありますがよく探して観察して見てください。

そのほかにもこもれびの森では中央緑地のカワヅザクラが最も早く淡紅色の花が咲きます。その後オオシマザクラ、ヤマザクラ、エドヒガンのシダレザクラ、マメザクラ等の花が楽しめました。

森の周辺ではいろいろのサクラが植生されていますが、大野台6丁目の相模原緑道緑地にコヒガンの園芸種のジュウガツザクラ(十月桜)が5本植えられていますが、秋から冬にかけて白い花がひそやかに咲いていましたが、4月の上旬淡紅色の花が満開に咲き、6ヶ月間も花をつけていたことに感動です。

毎年、桜の花を追って各地に行っていますが、近年、各地の行政主導でサクラや花々による町おこし、村おこしのイベントを行っています。

神奈川県内の特徴ある早咲きのサクラの見所を紹介します。

松田町では松田山に早咲き桜のカワヅザクラを植生し、2月の中旬から3月の初旬にかけて“まつだ桜まつり”開催し、本場河津桜に劣らず賑っています。

南足柄市では行政挙げて花による地域おこしの一環としてカワヅザクラの花とソメイヨシノの開花の間に咲く、シナミザクラとカンヒザクラとの交配種である“春めき”サクラを市内の運動公園や大手企業の工場の構内に植生して一般公開しています。

根府川のおかめ桜は2月下旬から3月中旬ごろの開花ですが、オカメはイギリス人によりイギリスでカンヒザクラとマメザクラを交配して作出した栽培品種で根府川では“帰国子女の桜”と銘打って楽しませてくれます。【林】



イヌザクラ